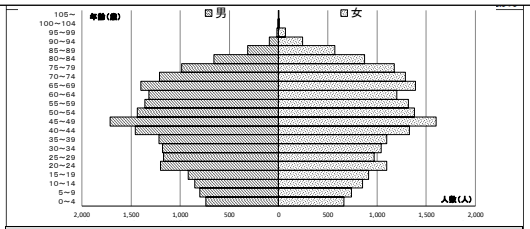
第5章　地区別プラン

例　示

1　松山地区

地区の概要

【地区の概要】
地区ごとの統計データを整理



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	12 事業者	通所介護	5事業者
	訪問介護	10 事業者	グループホーム	3事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	19 事業者	日中活動系事業所	7事業者
	入所施設	―	グループホーム	18 事業者
子育て分野	保育所※	4か所　定員 244 人　利用者数 282 人		
	幼稚園	3か所　定員 745 人　利用者数 360 人		
	放課後児童クラブ	6か所　定員 349 人　利用者数 363 人		
その他資源	公園			45 か所(270,880 ㎡)
	民生委員・児童委員数	75 人	地域福祉協力員	6人
	病院・診療所	34 施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	2,201 人	シニアクラブ設置数	28 か所
高齢者世帯数	1,767 世帯	シニアクラブ会員数	1,470 人
自治会加入世帯数	11,721 世帯	シルバー人材センター登録者数	261 人
高齢者サロン数	21 か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	228 人
支え合いサポーター登録者数	53 人		
要支援認定者数	455 人	要介護認定者数	1,198 人
障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳

これまでの振り返り

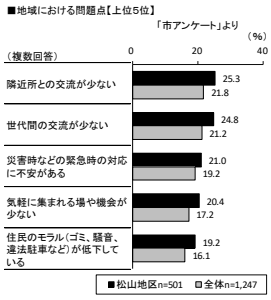
【これまでの振り返り】
第一次プランの取組についての振り返りや地区の現状などについて

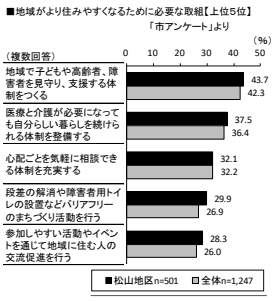
松山地区では、地域におけるコミ

対象にあいさつ励行に関する標語の募集を行い、優秀な作品は表彰し、地域の広報紙に掲載するなど、各種取組を推進してきました。こうした一連の取組で、積極的に挨拶する子どもが増えてきたという評価もあがっています。しかし一方では、地域住民に浸透したとは言い難いという意見もあり、継続的な取組の必要性が指摘されています。

また、松山地区は人口が多いため、自治会ごと、地域ごとに状況も異なっており、共通の課題をまとめることが難しい状況ですが、都市部であるがゆえに、血縁や昔ながらの地縁は薄く、地域住民の関係性は希薄化しています。加えて近年は集合住宅が増加して単身世帯が多く、高齢者のみの世帯も多いため、孤立の懸念や、日常生活に不便を感じている人への支援などが課題となっています。一方で、こうした課題解決に向けた取組となる地域活動の担い手不足などの問題も深刻化しています。

市が実施したアンケート調査でも、松山地区では隣近所との付き合いが少ない様子や、地域で子どもと高齢者、障害者を見守り、支援する体制づくりの必要性を感じている住民が多くいる様子がうかがえます。





策定の経緯と方向性

【策定の経緯と方向性】
地区別プラン作成部会で話し合われた地区の課題や今後の取組について

◆ **あいさつが飛び交うまちづくりの継続した取組が必要**

前計画で取り組んできた「あいさつが飛び交うまちづくり」の活動は、短期間で終了とするのではなく、中長期的に継続することが重要です。

そのため、前計画での取組がさらに充実したものとなるように、自治会や学校、商工会、地縁団体との連携を強化し、看板やポスターといった啓発グッズを再検討

く、地域活動もサロンなどの集話会への参加が少ないなど、活動状況に偏りがみられます。地域との関係形成は、困ったときに助け合えるだけでなく、介護予防（フレイル予防）にもつながります。

地域には、見守り隊や支え合いサポート事業など、やりがいのあるボランティア活動も多くあるため、活動の魅力を周知します。また、健康づくりや、これまで培ってきた知識や経験を地域で生かせるように、月例ウォーキングや自治会活動などの地域行事を周知し、参加を呼びかけていきます。

課題のまとめ

1. あいさつが飛び交うまちづくりの中長期的な取組が必要
2. 地域住民の関係性が希薄化し、集合住宅も多い地域のため、高齢者などの孤立が心配
3. 男性にもサロンなどの地域活動への参加を促すことが必要

今後の方向性

1. 「あいさつが飛び交うまちづくり」の取組を継続する
2. 「高齢者の孤立」を防ぎ、隣近所の繋がりを今よりさらに一歩深める
3. 男性の地域活動への参加を促す

主な取組

1. あいさつが飛び交うまちづくりを地域全体に浸透するように取り組む
2. 住民同士、活動団体同士など、積極的なコミュニケーションを進める
3. 男性に地域活動や地域行事について周知して参加を促し、活動者の拡大を図る

役割分担とスケジュール

【役割分担とスケジュール】
今後の取組を推進するにあたって想定される協力機関と担う役割、そしてスケジュールについて

① **あいさつが飛び交うまちづくりの継続した取組**

想定される協力機関	役割	実施年度 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
住民・地域	地域でのあいさつ励行	実施				
社協支						
自治会 童委員						

② 隣

住民						
社協支部	サロン情報紙の周知、広報等による普及	実施				
その他推進団体	ロコミによるサロンへの声かけ、お誘い	実施				

③ **男性の地域活動への参加促進**

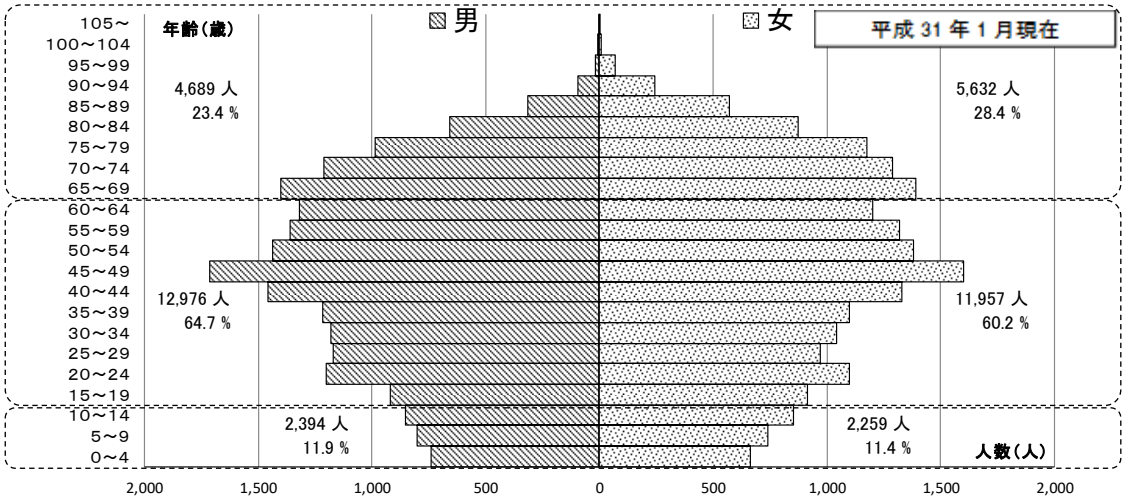
想定される協力機関	役割	実施年度 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
住民・地域	地域活動への積極的な参加	実施				
社協支部	活動者を増やすための検討 周知	検討	周知			
その他推進団体	住民への周知による協力者の増加		実施			

1　松山地区

地区の概要

市の中央部に位置し、比企地域の中心都市として行政機関をはじめ様々な施設が集積しています。地域の中心に東松山駅があり、それを取り巻くように住宅地が広がり、駅を起点としたバス路線があります。

平成 31 年 1 月現在					平成 26 年	
人口	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢者人口・比率
39,907 人	10,321 人 25.9%	24,933 人 62.5%	4,653 人 11.7%	1,510 人 3.8%	39,595 人	8,928 人 22.5%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	12 事業者	通所介護	5事業者
	訪問介護	10 事業者	グループホーム	3事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	19 事業者	日中活動系事業所	7事業者
	入所施設	―	グループホーム	18 事業者
子育て分野	保育所※	4か所	定員 244 人	利用者数 282 人
	幼稚園	3か所	定員 745 人	利用者数 360 人
	放課後児童クラブ	6か所	定員 349 人	利用者数 363 人
その他資源	公園			45 か所(270,880 ㎡)
	民生委員・児童委員数	75 人	地域福祉協力員	6人
	病院・診療所	34 施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	2,201 人	シニアクラブ設置数	28 か所
高齢者世帯数	1,767 世帯	シニアクラブ会員数	1,470 人
自治会加入世帯数	11,721 世帯	シルバー人材センター登録者数	261 人
高齢者サロン数	21 か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	228 人
支え合いサポーター登録者数	53 人		
要支援認定者数	455 人	要介護認定者数	1,198 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	1,225 人	354 人	331 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

松山地区では、地域におけるコミュニケーションの活性化が必要であるとのことから、第一次プランにおいて、３つの重点課題を取り上げ、課題解決のために取組目標を「つながりあう地域　あいさつが飛び交うまちづくりを進めます」としました。

【第一次プランの概要】

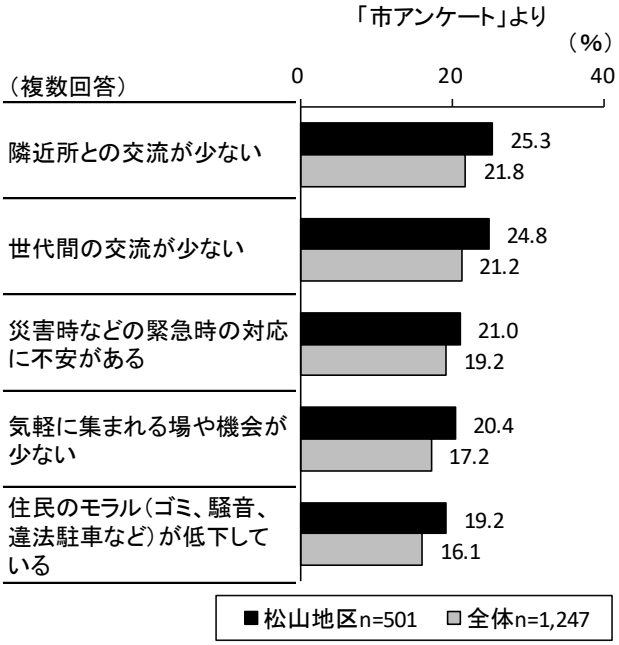
重点課題	1　高齢者の孤立を防ぐ 2　定年退職後の人の地域デビューを促す 3　安心安全を感じとれる地域づくり
取組目標	つながりあう地域 あいさつが飛び交うまちづくりを進めます

あいさつが飛び交うことで地域の交流や孤立の防止にもつながるように、小中学生を対象にあいさつ励行に関する標語の募集を行い、優秀な作品は表彰し、地域の広報紙に掲載するなど、各種取組を推進してきました。こうした一連の取組で、積極的に挨拶する子どもが増えてきたという評価もあがっています。しかし一方では、地域住民に浸透したとは言い難いという意見もあり、継続的な取組の必要性が指摘されています。

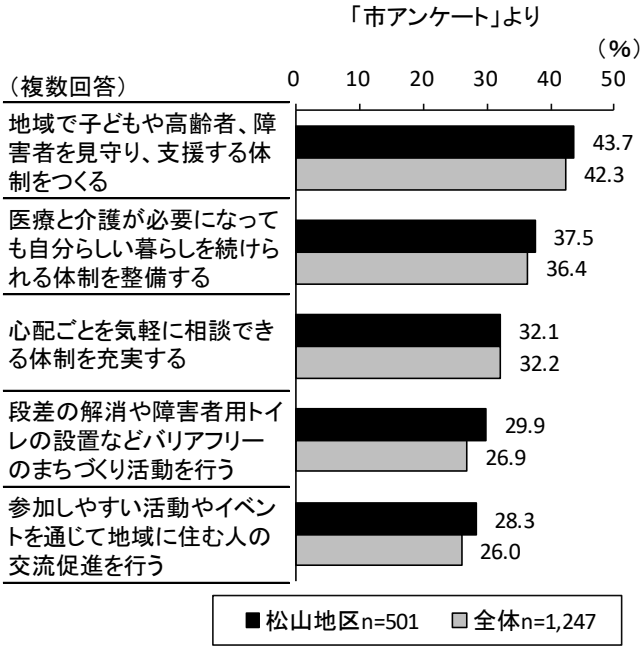
また、松山地区は人口が多いため、自治会ごと、地域ごとに状況も異なっており、共通の課題をまとめることが難しい状況ですが、都市部であるがゆえに、血縁や昔ながらの地縁は薄く、地域住民の関係性は希薄化しています。加えて近年は集合住宅が増加して単身世帯が多く、高齢者のみの世帯も多いため、孤立の懸念や、日常生活に不便を感じている人への支援などが課題となっています。一方で、こうした課題解決に向けた取組となる地域活動の担い手不足などの問題も深刻化しています。

市が実施したアンケート調査でも、松山地区では隣近所との付き合いが少ない様子や、地域で子どもと高齢者、障害者を見守り、支援する体制づくりの必要性を感じている住民が多くいる様子がうかがえます。

■地域における問題点【上位5位】



■地域がより住みやすくなるために必要な取組【上位5位】



策定の経緯と方向性

◆ **あいさつが飛び交うまちづくりの継続した取組が必要**

前計画で取り組んできた「あいさつが飛び交うまちづくり」の活動は、短期間で終了とするのではなく、中長期的に継続することが重要です。

そのため、前計画での取組がさらに充実したものとなるように、自治会や学校、商工会、地縁団体との連携を強化し、看板やポスターといった啓発グッズを再検討し作成するとともに、学校や自治会、商店などへの周知の徹底を図ります。

◆ **隣近所の繋がりを深め、「高齢者の孤立」を防ぐことが大切**

単身世帯や高齢者のみの世帯が多く、地域住民の関係性も希薄化していることに鑑み、地域住民、特に高齢者や単身世帯の繋がりを再構築する必要があります。

そのため、地域住民が集い、交流できる場として、サロン活動が充実するように、地域住民への周知活動や、サロン運営者の情報交換の場づくりを進めます。また、日常生活に不便が生じている高齢者などの支援や孤立を防げるように、自治会と民生委員・児童委員との連携強化や、あいさつや声かけといったコミュニケーションを積極的に図ります。

◆ **男性の地域活動への参加促進が必要**

男性は定年退職後に地域コミュニティに入ることが難しいと感じている人が多く、地域活動もサロンなどの茶話会への参加が少ないなど、活動状況に偏りがみられます。地域との関係形成は、困ったときに助け合えるだけでなく、介護予防（フレイル予防）にもつながります。

地域には、見守り隊や支え合いサポート事業など、やりがいのあるボランティア活動も多くあるため、活動の魅力を周知します。また、健康づくりや、これまで培ってきた知識や経験を地域で生かせるように、月例ウォーキングや自治会活動などの地域行事を周知し、参加を呼びかけていきます。

課題のまとめ

1. あいさつが飛び交うまちづくりの中長期的な取組が必要
2. 地域住民の関係性が希薄化し、集合住宅も多い地域のため、高齢者などの孤立が心配
3. 男性にもサロンなどの地域活動への参加を促すことが必要

今後の方向性

1. 「あいさつが飛び交うまちづくり」の取組を継続する
2. 「高齢者の孤立」を防ぎ、隣近所の繋がりを今よりさらに一歩深める
3. 男性の地域活動への参加を促す

主な取組み

1. あいさつが飛び交うまちづくりを地域全体に浸透するように取り組む
2. 住民同士、活動団体同士など、積極的なコミュニケーションを進める
3. 男性に地域活動や地域行事について周知して参加を促し、活動者の拡大を図る

役割分担とスケジュール

① あいさつが飛び交うまちづくりの継続した取組

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	地域でのあいさつ励行	実施				
社協支部	ポスター等啓発グッズの制作 配付、周知	制作	配布、周知			
自治会、民生委員・児童委員、PTA 等	地域全体に浸透させるための協力	実施				

② 隣近所の繋がりを深め、「高齢者の孤立」を防ぐ

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	サロン等の地域行事への参加	実施				
社協支部	サロン情報紙の周知、広報等による普及	実施				
その他推進団体	口コミによるサロンへの声かけ、お誘い	実施				

③ 男性の地域活動への参加促進

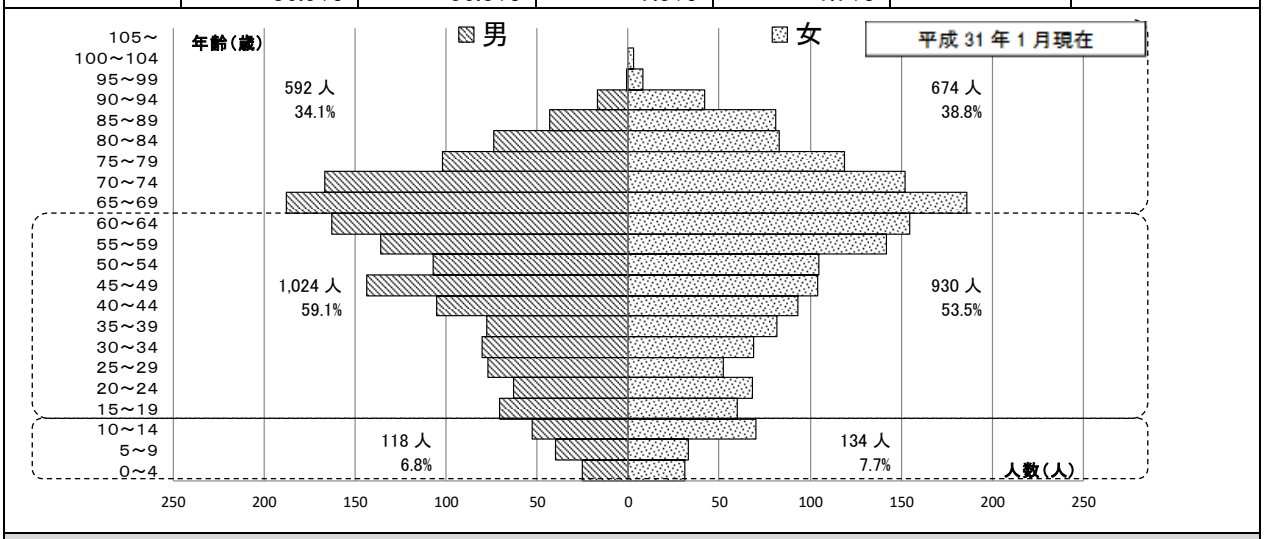
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	地域活動への積極的な参加	実施				
社協支部	活動者を増やすための検討 周知	検討	周知			
その他推進団体	住民への周知による協力者の増加		実施			

2　大岡地区

地区の概要

市の北部に位置し、西側に丘陵地があり、角川や和田吉野川沿いは田園地帯となっています。国道 407 号沿いにバス路線がありますが、多くの住民は自動車を主要な移動手段としています。

平成 31 年 1 月現在					平成 26 年	
人口	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢者人口・比率
3,472 人	1,266 人 36.5%	1,954 人 56.3%	252 人 7.3%	60 人 1.7%	3,782 人	1,116 人 29.5%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	3事業者	通所介護	1事業者
	訪問介護	－	グループホーム	－
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	－	日中活動系事業所	5事業者
	入所施設	2事業者	グループホーム	1事業者
子育て分野	保育所※	1か所　定員 60 人　利用者数 68 人		
	幼稚園	－		
	放課後児童クラブ	1か所　定員 42 人　利用者数 28 人		
その他資源	公園			1か所（53,986 ㎡）
	民生委員・児童委員数	8人	地域福祉協力員	5人
	病院・診療所	2施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	208 人	シニアクラブ設置数	5か所
高齢者世帯数	237 世帯	シニアクラブ会員数	298 人
自治会加入世帯数	1,012 世帯	シルバー人材センター登録者数	25 人
高齢者サロン数	5か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	24 人
支え合いサポーター登録者数	5人		
要支援認定者数	36 人	要介護認定者数	194 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	30 人	3人	40 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

大岡地区では、第一次プランは２つの重点課題の解決に向けて、重点項目を２つ掲げ、取り組んできました。

１点目の大岡地区コミュニティ中核拠点については、３世代交流事業に加え、平成 29 年からは「シニアフェスティバル」を開催しており、多くの高齢者が参加し、好評を得ています。今後も地域住民の交流の場として各種行事を開催していく計画ですが、地域住民が参加する際の交通手段の確保が課題となっています。

【第一次プランの概要】

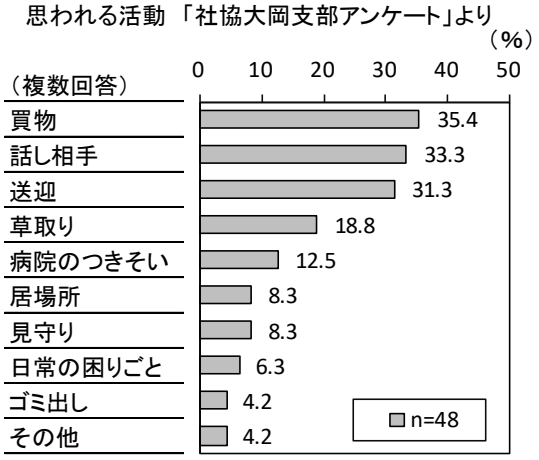
重点課題	1	少子高齢化による地域での孤立を防ぐ、世代間相互交流の拠点づくり
	2	支えられる側の増加、支える側の高齢化による地域活動の再点検
重点項目	1	大岡地区コミュニティ中核拠点について
	2	既存組織、既にあるシステムの再点検

既存組織、既にあるシステムの再点検については、各種団体のつなぎ役として地域福祉コーディネーターを配置したことで、団体間の連携がとりやすくなったという評価を得ています。シニアフェスティバルも実行委員会形式で取り組んだことで、各団体の結束が高まったと評価されています。地域のニーズを反映していくために、既存組織やシステムの活用は効果的であり、定期的に情報交換を行っていく必要があります。

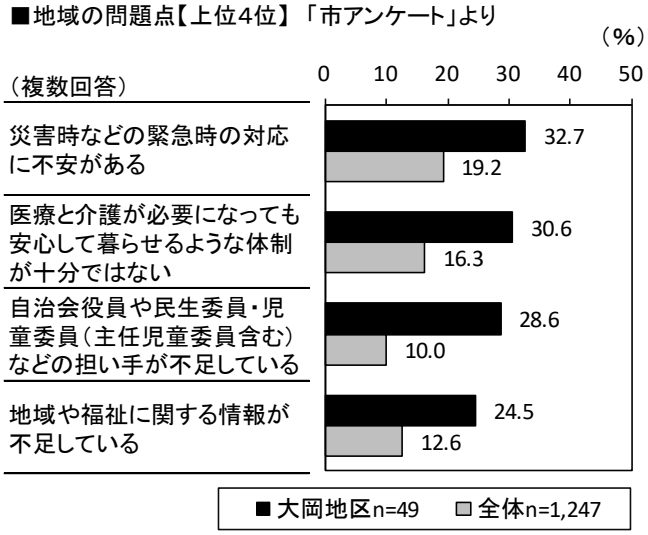
また、第一次プランの振り返りとともに、次期プランに向けて実施したアンケート調査では、地域での支え合い・助け合いが必要だと思われる活動として、買い物や話し相手、送迎といった回答が多く、調査全体を通じて、外出や買い物、空き家の問題、高齢者や子どもの居場所、伝統行事の継承など、今後の地域での暮らしや地域社会に不安を感じている様子がうかがえました。

市が実施したアンケート調査でも、災害時の対策や介護が必要になった場合の暮らしなどに不安を感じている住民が多く、少子高齢化と人口減少が進む中で、住民同士で地域生活を支え合う体制や、地域の活力を高められるような取組などが重要となっています。

■地域での支え合い・助け合いが必要だと思われる活動 「社協大岡支部アンケート」より



■地域の問題点【上位4位】「市アンケート」より



策定の経緯と方向性

◆ 住みやすい生活環境の確保

通院や買い物などに不便を感じている住民が多く、免許返納者が増加する中でデマンドタクシーや循環バスの運行が改善するように、行政・住民・各種団体などと解決策について協議を進めていきます。

外出以外にも、ゴミ出しや草取りなど、高齢者などの日常生活をサポートする体制の必要性が高まっているため、社協支部を核とし、各種団体などへ地域の支え合い活動の周知やサポーターの募集を行います。

空き家についても防犯や衛生上の問題が生じているため、自治会を通じて地域の現状を行政に伝え、市が実施する空き家対策事業の活用や、警察署、消防署と連携した防犯対策を推進します。

◆ よりよいコミュニティの形成

子どもの遊び場や、高齢者が気軽に集い話せる環境が少ないため、相談できる場所や世代間交流を求める意見が多くあります。そのため、集会所を活用し、高齢者サロンやシニアクラブなどと子どもたちとの交流を進め、地域交流を通して顔の見える関係づくりを行います。また、広報紙や地域福祉コーディネーターからの口コミなど、多様な情報提供手段を活用し、居場所に関する情報発信を行います。

◆ 特徴ある地域づくり

少子高齢化や人口減少など地域の様々な変化に伴い、大岡小学校の児童数が減少しています。また、伝統行事やおまつりへの参加者が少なくなるなど、地域性の喪失が危惧されています。そのため、自然豊かな大岡地区の良さの発信、ぼたん園や農林公園などを活用した集客性のある事業の実施、地域の伝統行事やおまつりなどの積極的な周知により、住民の参加拡大を図り、特徴ある住みよい地域づくりを行います。

課題のまとめ

1. 公共交通機関、通院、買い物、治安など、生活環境に不便や不安が生じている
2. 子どもの遊び場や高齢者が気軽に集まれる場所が少ない
3. 少子高齢化と人口減少が進み、伝統行事の継承が危惧されている

今後の方向性

1. 地域住民、団体、市などと連携した住みやすい生活環境の確保に向けた取組の推進
2. 子どもから高齢者までが気軽に集い交流できる、より良いコミュニティの形成
3. 少子高齢化と人口減少の対策として、特徴ある住みよい地域づくり

主な取組み

1. 地域による行政や関係機関への主体的な働きかけと地域の支え合い活動の推進
2. 地域交流を通じた顔の見える関係づくりと、多様な手法による居場所情報の発信
3. 大岡地区の特徴の発信や魅力ある地域資源の活用、伝統行事の周知及び参加促進

役割分担とスケジュール

①　住みやすい生活環境の確保

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知・サポーター登録 地域の現状を行政等へ情報提供	検討	実施	継続		
社協支部	サポーター募集、他機関との連携					
その他推進団体	活動推進への協力					

②　よりよいコミュニティの形成

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	居場所づくりや交流の推進・周知	検討	実施	継続		
社協支部	居場所や相談できる場の周知					
その他推進団体	居場所づくりや交流の推進と協力					

③　特徴ある地域づくり

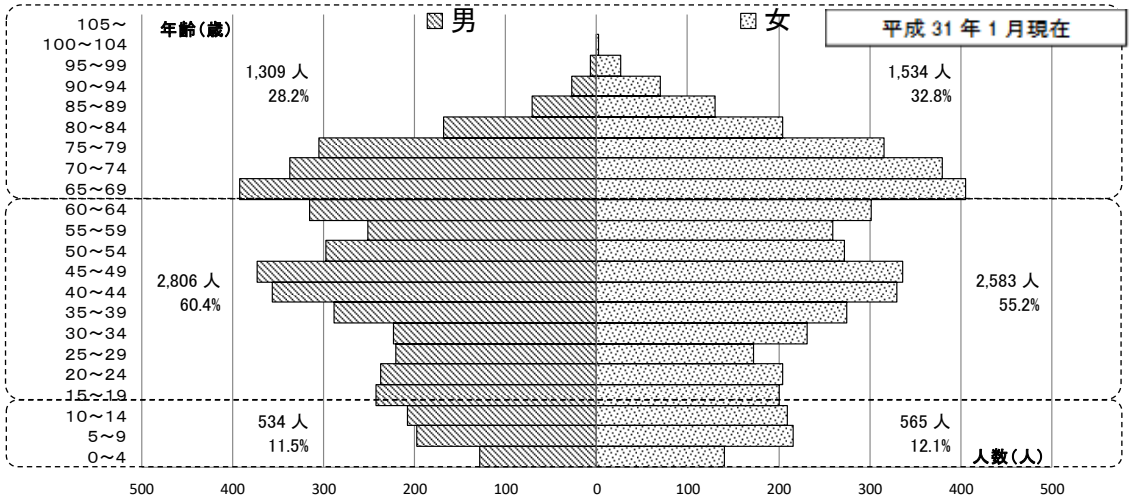
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	大岡の特徴の発信及び伝統行事等への参加	検討	実施	継続		
社協支部	大岡の特徴の発信及び伝統行事等の周知					
その他推進団体	大岡の特徴ある事業の発掘・発信					

3　唐子地区

地区の概要

市の西部に位置し、都幾川沿いに水田や畑地、丘陵など「ふるさとの原風景」ともいえる景観が残されており、豊かな自然と調和した生活環境が保たれています。東松山駅・森林公園駅・つきのわ駅へのアクセスが良好な地域です。

人口	平成 31 年 1 月現在				平成 26 年	
	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢化率
9,331 人	2,843 人 30.5%	5,389 人 57.8%	1,099 人 11.8%	161 人 1.7%	9,356 人	2,434 人 26.0%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	6事業者	通所介護	4事業者
	訪問介護	2事業者	グループホーム	1事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	5事業者	日中活動系事業所	1事業者
	入所施設	―	グループホーム	3事業者
子育て分野	保育所※	5か所	定員 284 人	利用者数 264 人
	幼稚園	―		
	放課後児童クラブ	3か所	定員 146 人	利用者数 158 人
その他資源	公園			15 か所（164,772 ㎡）
	民生委員・児童委員数	17 人	地域福祉協力員	1人
	病院・診療所	6施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	516 人	シニアクラブ設置数	8か所
高齢者世帯数	557 世帯	シニアクラブ会員数	515 人
自治会加入世帯数	2,894 世帯	シルバー人材センター登録者数	74 人
高齢者サロン数	12 か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	42 人
支え合いサポーター登録者数	7人		
要支援認定者数	100 人	要介護認定者数	304 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	310 人	66 人	64 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

唐子地区では、第一次プランは３つの重点課題をとりあげ、課題解決に向けた４つの取組を推進してきました。

その結果、新たなサロンの開設やサロン代表者会議の開催など、計画どおりに実施することができました。また、意見交換会を含む見守りや支え合いをテーマとした講演会を開催することができました。一方、支え合いサポート事業については、地区内のサポーターの懇談会や事業の周知活動などを進めてきましたが、サポーターと民生委員・児童委員など地域の活動者がお互いの存在を把握していないといった課題などがあげられました。

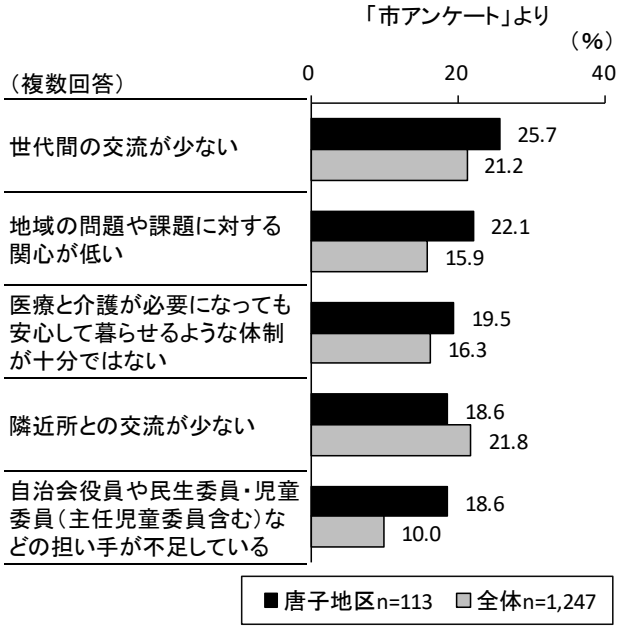
【第一次プランの概要】

重点課題	1	地域行事等への参加の促進
	2	孤立化の防止と見守る仕組みの構築
	3	自治会役員や民生委員・児童委員などのなり手不足の解消
取組	1	サロンなどの居場所づくりの推進
	2	一人暮らし高齢者やひきこもり家庭への見守りの実施
	3	回覧板声かけ運動の実施
	4	支え合いサポート事業の活性化

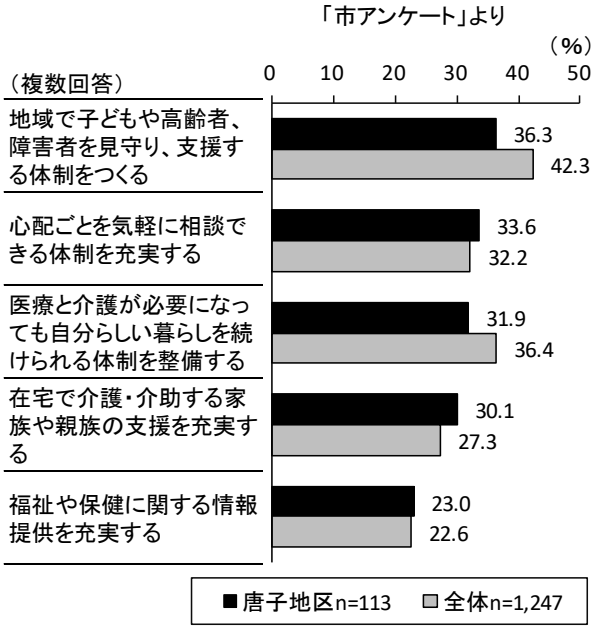
今後については、サロン活動などは地域の諸団体の連携など、改善を図りながら今後も継続していく必要があるという評価となっています。また、これらの取組については、十分に認知がされていなかったことや、若者の参加が少ないことなども課題としてあげられており、今後の活動にあたっては、広報活動を充実して、講演会などの実施、各関係機関との連携を積極的に行っていく必要があります。

市が実施したアンケート調査では、地域の問題点として、世代間の交流が少ないことを心配している意見が多くみられます。また、地域がより住みやすくなるために必要なことは、地域で子どもと高齢者、障害者を見守り、支援する体制をつくることが最も多く、第一次プランと重なる課題がうかがえます。

■地域における問題点【上位5位】



■地域がより住みやすくなるために必要な取組（上位5位）



策定の経緯と方向性

◆ **見守りを必要とする人々の増加**

一人暮らし高齢者など、見守りが必要な人が増加する中で、サロン活動は見守りとしても効果的であり、第一次プランにおいても積極的に進めてきましたが、参加者の固定化なども指摘されています。そのため、次期プランでは、サロンの周知や地域の諸団体との連携、３世代交流の促進など、サロンの充実を図りながら、子どもの見守り、一人暮らし高齢者への働きかけなどを行うこととなりました。特に見守りを行う諸団体同士の連携の促進が重要です。また、子どもの見守りは、登下校の安全だけでなく子どもの異変に気づくことで、生活全体の見守りにつなげていきます。

◆ **自治会加入の減少や地域のつながりの希薄化**

人口減少や集合住宅の増加などにより自治会の加入の減少や地域のつながりの希薄化が進んでいますが、地域の各種団体と協力して３世代交流に取り組んでいる地区などもあります。子どもを中心としたイベントでは保護者の参加も期待でき、若い世代との関わりもできるため、自治会や子ども会、シニアクラブなど、地域の様々な団体と連携し、社協支部事業や地域の行事などで多世代交流・子どもの参加促進を図っていきます。

◆ **地域の中で困りごとを抱えている人々の増加**

車の運転ができないために買い物や通院などに困っている人、ゴミ出しなどが難しくなってきた人など、日常生活で困りごとを抱えている人が増えています。そのため、第一次プランにおいて取り組んできた支え合いサポート事業をさらに広めていく必要があり、民生委員・児童委員など地域の活動者との連携や事業に関する周知に努め、サポーター登録者を増やすなど、事業の改善を図りながら継続して実施していきます。

課題のまとめ

1. 見守りを必要とする人々の増加
2. 自治会加入の減少や地域のつながりの希薄化
3. 地域の中で困りごとを抱えている人々の増加

今後の方向性

1. 高齢者や子どもなどへの見守りの実施
2. 多世代交流の推進
3. 地域の諸団体と連携し、支え合いサポート事業を周知する

主な取組み

1. サロン活動・子ども見守り隊などの充実、一人暮らし高齢者への働きかけ
2. 社協支部事業・地域行事などによる多世代交流機会の創出と子どもの参加促進
3. 支え合いサポーターの増加に向けた取組

役割分担とスケジュール

① サロン活動・子ども見守り隊等の充実、一人暮らし高齢者への働きかけ

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	サロン・見守り隊への参加・協力	内容検討	協力依頼	実施		
社協支部	サロン・見守り隊への協力、一人暮らし高齢者への働きかけ					
自治会、民生委員・児童委員、PTA 等	サロン・見守り隊への協力、一人暮らし高齢者への働きかけ	→	→	→	→	→

② 社協支部事業・地域行事等による多世代交流機会の創出と子どもの参加促進

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	多世代交流事業・イベントへの協力・参加	内容検討	協力依頼	実施		
社協支部	社協支部事業の多世代交流化					
自治会、民生委員・児童委員、PTA 等	多世代交流事業・イベントへの協力・参加・連携・促進	→	→	→	→	→

③ 支え合いサポーターの増加に向けた取組

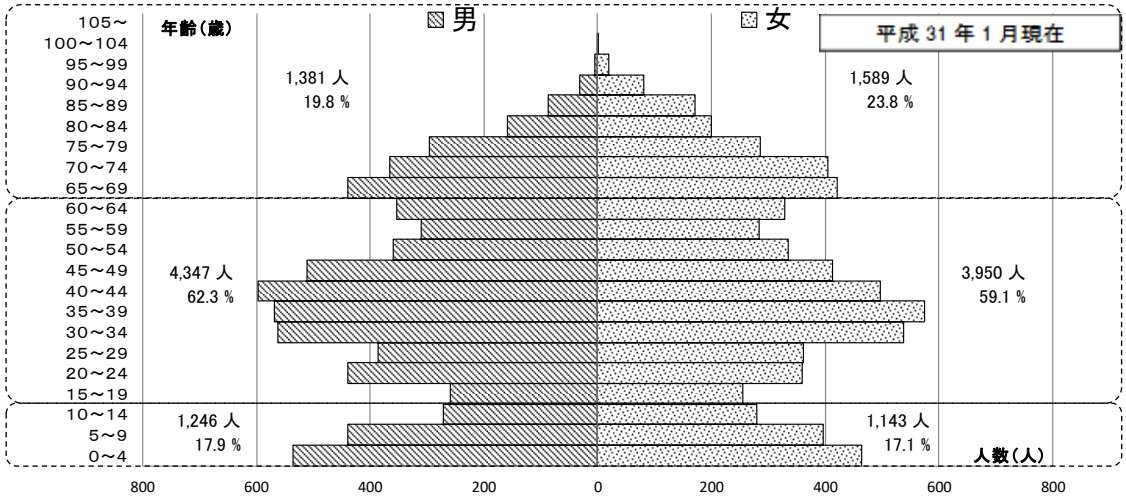
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	支え合いサポーターの登録、呼びかけ	内容検討	協力依頼	実施		
社協支部	住民・各団体への支え合いサポート事業の周知（事例紹介・事業説明等）					
自治会、民生委員・児童委員、PTA、愛育班等	支え合いサポート事業の周知 地域福祉コーディネーターとの連携	→	→	→	→	→

4　高坂地区

地区の概要

市の南部に位置し、西側の丘陵地、中央の台地と起伏に富んだ地形で、豊かな自然環境を育んでいます。地域の中心に高坂駅があり、駅周辺では土地区画整理事業による基盤整備が行われた住宅地が広がり、あずま町には商業施設が集積しています。

平成 31 年 1 月現在					平成 26 年	
人口	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢化率
13,656 人	2,970 人 21.8%	8,297 人 60.8%	2,389 人 17.5%	231 人 1.7%	11,719 人	2,446 人 20.9%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	3事業者	通所介護	3事業者
	訪問介護	3事業者	グループホーム	1事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	5事業者	日中活動系事業所	1事業者
	入所施設	1事業者	グループホーム	ー
子育て分野	保育所※	3か所	定員 282 人	利用者数 295 人
	幼稚園	1か所	定員 280 人	利用者数 315 人
	放課後児童クラブ	2か所	定員 160 人	利用者数 150 人
その他資源	公園			24 か所（937,508 ㎡）
	民生委員・児童委員数	15 人	地域福祉協力員	2人
	病院・診療所	9施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	585 人	シニアクラブ設置数	14 か所
高齢者世帯数	568 世帯	シニアクラブ会員数	761 人
自治会加入世帯数	3,152 世帯	シルバー人材センター登録者数	90 人
高齢者サロン数	19 か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	33 人
支え合いサポーター登録者数	8人		
要支援認定者数	95 人	要介護認定者数	359 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	346 人	79 人	76 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

高坂地区では、第一次プランは２つの重点課題と「とこしえの伝統文化の継承と文化創造のまちづくり」を目標として、地域行事への住民参加やあいさつの推進、サロン活動参加への呼びかけなどを行ってきました。

【第一次プランの概要】

重点課題	１　地区のつながりの維持と新たなつながりの再構築 ２　地区における高齢者や子どもの見守り
目標	とこしえの伝統文化の継承と文化創造のまちづくり

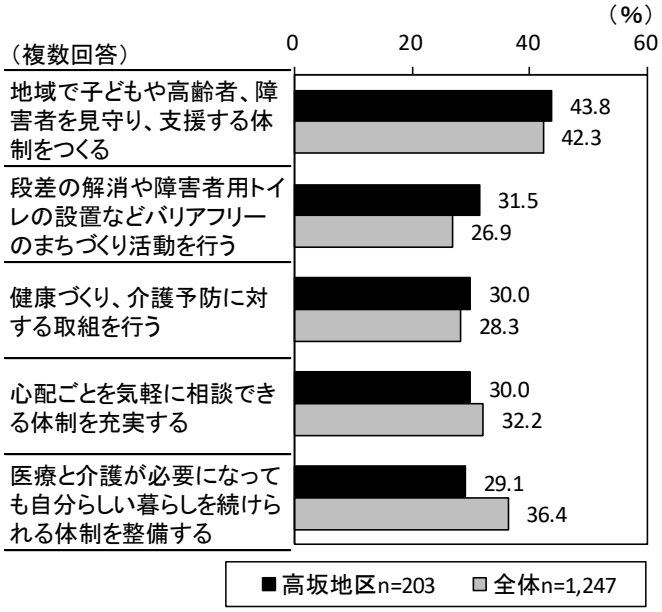
地区のつながりづくりとしてサロン活動を推進しており、各サロンは工夫をしながら運営しています。しかし、参加者の固定化など課題も抱えていることから、サロン代表者と社協支部役員との情報交換会を開催しています。また、活動を推進するにあたり自治会や民生委員・児童委員との連携が欠かせないことから、民生委員・児童委員と区長との懇談会を開催するなど、情報の共有や意見の交換を行ってきました。

見守りについては、子ども見守り隊の活動などを通じて取り組んでいますが、担い手の固定化、高齢化など、活動を担う新たな人材の確保が難しいこと、また、不審者情報などのスムーズな共有化が難しいことも課題となっています。

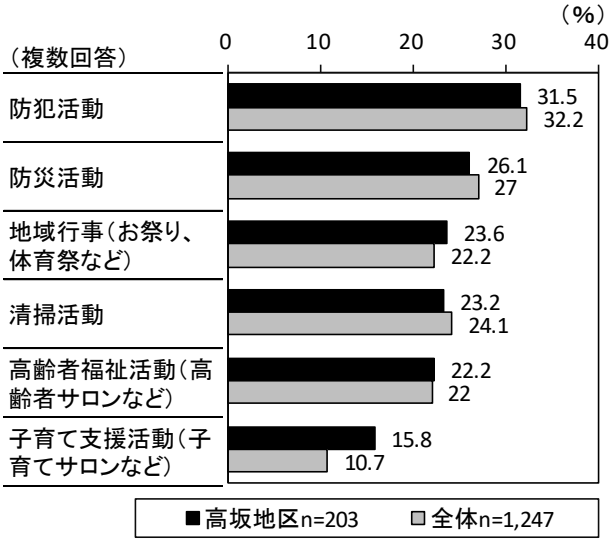
併せて、高坂地区は、土地区画整理事業により人口は増加しているものの、昔ながらの地域は人口減少や高齢化が進むなど、地域により状況も異なるため、それぞれの地域の意見を踏まえて次期プランを検討していく必要があります。

市が実施したアンケート調査では、地域がより住みやすくなるためには、地域で子どもや高齢者、障害者を見守り、支援する体制をつくることという回答が最も多くなっています。また、活発になると良いと思う地域活動は、防犯活動や防災活動など安全に関わるものが上位を占めており、見守り活動など、誰もが安全、安心に暮らせるような取組などが今後も重要であると考えられます。

■地域がより住みやすくなるために必要な取組（上位5位）
「市アンケート」より



■活発になると良いと思う地域活動（上位6位）
「市アンケート」より



策定の経緯と方向性

◆ **地域全体での見守り体制の充実**

高坂地区は、新たな世帯が増えているものの、個人商店の減少や見守り隊のボランティアの減少などにより、地域での見守り体制の弱体化が心配されています。しかし、見守りというのは特定の人が行うのではなく、誰もが見守り・見守られる両方の役割を担うことであることから、『安心して暮らせる高坂』を目指して、地域見守りのネットワーク（つながり）を推進していきます。

◆ **地域の伝統行事などの継承を通じたまちづくり**

新たな住民が増える中で、地域の伝統行事などを『知る・参加する』機会が減少しています。また、人口減少・少子高齢化により伝統行事などの継承が難しい地区もあり、地区全体で継承していく取組を検討することが必要となっています。地区全体での取組に広げていくことは、若い世代や新たな地域住民との交流のきっかけとなり、地区全体での協働による新たなまちづくり活動につながることも期待できます。そのため、地域行事一覧表の改善など、地域行事などの周知・参加を進めていきます。

◆ **全世代での交流と協力の必要**

一人暮らし高齢者など、見守りが必要な人が増加する中で、サロン活動は見守りとしても効果的であり、第一次プランにおいても積極的に進めてきましたが、参加者の固定化の問題なども指摘されています。そのため、次期プランでは、サロンの周知や地域の諸団体との連携、３世代交流の促進など、サロン活動の充実を図る取組を推進し、併せて、子どもの見守りや一人暮らし高齢者への働きかけなどを行っていきます。

課題のまとめ

1. 地域全体での見守り体制が弱くなってきている
2. 多くの地域で開催されている伝統行事を『知る・参加する』機会が減っている
3. サロンなど地域の参加者や協力者が固定化しており、若い世代の参加・協力を得る必要がある

今後の方向性

1. 誰もが見守り・見守られる両方の役割を持つことで、日頃から地域住民同士が見守りを意識し、『安心して暮らせる高坂』を目指す
2. 伝統行事を周知し、地区全体で協働した新たなまちづくりを進める
3. 『全世代での交流の場＝顔見知りになる機会』を増やし、地域のつながりを強化する

主な取組み

1. 地域見守りネットワークの推進
2. 高坂地区行事一覧表の作成・配布
3. 地域の居場所づくり　～三世代交流のススメ～

役割分担とスケジュール

①　地域見守りネットワークの推進

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	取り組み周知協力、あいさつの推進、見守り（日頃の生活の中で）、地域行事やサロン等への参加	検討 →	実施 →	見直し →	実施 →	
社協支部、区長会、民生委員・児童委員、ハートピアまちづくり協議会、学校、PTA、サロン、子ども会、シニアクラブ、商店会、商工会、各団体等	取り組み周知、あいさつの推進、見守り（日頃の生活の中で）、地域行事やサロン等への受入・参加声かけ					

②　高坂地区行事一覧表作成・配布

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知協力、行事への参加・受入	協力・参加・受入 →				
社協支部、区長会、民生委員・児童委員、活動センター、ハートピアまちづくり協議会、シニアクラブ、商店会、商工会、PTA 等	情報提供、情報取りまとめ、作成	検討	発行	検討	発行	検討 →
	配布周知、行事受入	周知・受入 →				

③　地域の居場所づくり　～三世代交流のススメ～

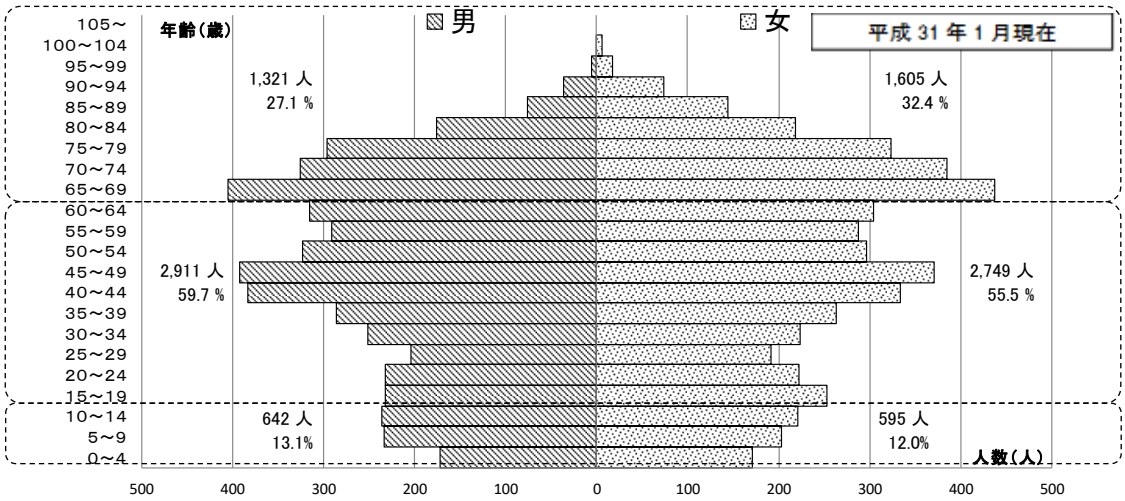
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知協力、サロン(居場所)への参加・受入・運営協力	地域状況把握・モデル地区検討 →	協力 →			
社協支部、区長会、民生委員・児童委員、ハートピアまちづくり協議会、サロン、PTA、子ども会、シニアクラブ、ボランティア団体、幼稚園、保育園等	開催内容検討、周知、サロン（居場）開催、開催・運営協力、開催報告		モデル地区での開催・開催報告 →	見直し・検討 →	開催・報告 →	

5　野本地区

地区の概要

市の南東部に位置し、田園地帯と北側の住宅地によりなっています。国道 254 号と 407 号による交通アクセスが良好なため、多くの住民は自動車を主要な移動手段としています。

人口	平成 31 年 1 月現在				平成 26 年	
	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢化率
9,823 人	2,926 人 29.8%	5,660 人 57.6%	1,237 人 12.6%	115 人 1.2%	9,865 人	2,532 人 25.7%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	2事業者	通所介護	3事業者
	訪問介護	－	グループホーム	1事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			1事業者
障害者分野	訪問系事業所	－	日中活動系事業所	2事業者
	入所施設	－	グループホーム	－
子育て分野	保育所※	6か所	定員 541 人	利用者数 533 人
	幼稚園	1か所	定員 280 人	利用者数 272 人
	放課後児童クラブ	2か所	定員　65 人	利用者数　64 人
その他資源	公園			6か所（9,318 ㎡）
	民生委員・児童委員数	18 人	地域福祉協力員	－
	病院・診療所	5施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	870 人	シニアクラブ設置数	13 か所
高齢者世帯数	844 世帯	シニアクラブ会員数	791 人
自治会加入世帯数	2,774 世帯	シルバー人材センター登録者数	81 人
高齢者サロン数	10 か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	56 人
支え合いサポーター登録者数	7人		
要支援認定者数	93 人	要介護認定者数	303 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	295 人	69 人	113 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

野本地区では、第一次プランは２つの重点課題をとりあげ、「一人ひとりが取り組むこと」「地域の人々が助け合って取り組むこと」「社会福祉協議会野本支部が取り組むこと」とそれぞれの役割分担の下に課題解決に向けた取組を推進してきました。

野本地区で実施した子どもを対象としたアンケート調査では、子どもたちにもあいさつが浸透している様子や、野本地区に愛着を感じている様子もうかがえました。

会議でも、子どもがあいさつをすることで、親もあいさつをしてくれるようになったなど、あいさつ運動の広がりがみられる意見もありました。しかし、一方で、実際はもっと少ないのではないか、地域によってばらつきがある、大人でもあいさつをしないといった意見などもあり、あいさつ運動は今後も継続して取り組んでいく必要があります。

【第一次プランの概要】

重点課題

1　あいさつをきっかけに、地域の行事等に参加し交流を図る
2　高齢者や子どもの見守り活動を推進する

取組

＜一人ひとりが取り組むこと＞

1　家庭の中であいさつをします。
2　隣近所に積極的にあいさつし、コミュニケーションを図ります。
3　隣近所と声をかけ合い、地域の行事やお祭りに参加し盛り上げます。

＜地域の人々が助け合って取り組むこと＞

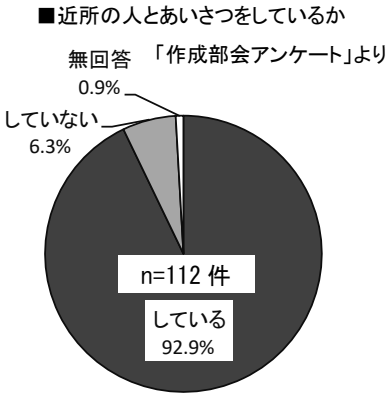
1　見守り隊と子どもたちをつなぐ場を持ちます。
2　高齢者の居場所づくりを進め、孤立しない地域づくりをします。

＜社会福祉協議会野本支部が取り組むこと＞

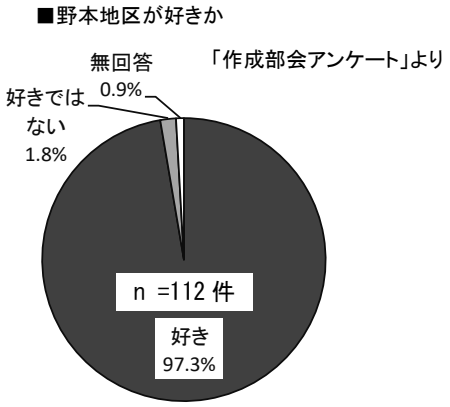
1　地域住民が交流できる居場所づくりを推進するため、サロンなどの立ち上げ支援や情報発信を行います。

高齢者や子どもの見守りについては、見守り隊やサロン活動を通じて取り組んでおり、新たな担い手・参加者も加わり活動していますが、まだ十分とは言えません。見守り活動は、人とのつながり、地域のつながりをつくることが大切であり、あいさつ運動と連動して取り組むなど、様々なアプローチで検討していく事も必要となっています。

■近所の人とあいさつをしているか



■野本地区が好きか



策定の経緯と方向性

◆ **あいさつ運動の周知とあいさつの継続した取組が必要**

あいさつは人とのつながりのきっかけにもなるため、あいさつ運動推進のチラシの配布や、募集した標語を使用したポスターの作成と掲示は、今後も継続して取り組んでいく必要があります。子どもたちにとっても、標語を考えることであいさつについて考えるきっかけとなるため、あいさつ運動の標語・ポスターの募集・更新・配布といった取組を継続していきます。

◆ **地域の行事やイベントの情報の周知が必要**

野本地区には、金谷の餅つき踊り、上野本の獅子舞など市指定の文化財をはじめ伝統的な行事が各地区にありますが、住民の参加・協力が薄れつつあるのが現状です。伝統行事に関わることは、そこに住む人々の顔の見える関係づくりとともに、郷土への愛着を深める有効な手立てです。地域で催される盆踊りで活用されている野本音頭を生かし、地域の行事やイベントを周知していきます。

◆ **子どもから高齢者まで、地域住民の交流を図ることが必要**

子どもたちからは公園が欲しいという意見、大人からは子どもとの交流が少ないという意見が多くみられます。子どもから高齢者まで地域住民が集まり交流できる機会・場所が必要であり、そうした機会・場所づくりを通じて、地域活動の担い手や参加者を増やしていくことも大切です。また、住民同士のつながりを深めることは日常のみならず災害時の支え合い・助け合いにもつながることから、顔の見える関係づくりのきっかけとなるよう世代間交流事業を開催していきます。

課題のまとめ

1. あいさつ運動の周知と継続した取組が必要
2. 地域の行事やイベントの情報が知られていない
3. 人々が集まり交流できる機会・場所が少ない

今後の方向性

1. あいさつ運動推進の継続
2. 各地域の行事を住民に周知し、顔のみえる関係づくりと郷土の愛着を深める
3. 子どもから高齢者まで、地域住民の交流の機会を作るとともに地域活動の担い手・参加者を増やす

主な取組み

1. あいさつ運動の標語・ポスターの募集・更新・配布
2. 野本音頭を活用した地域・伝統行事の周知
3. 世代間交流事業の開催

役割分担とスケジュール

① あいさつ運動の標語・ポスターの募集・更新・配布

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知協力	標語募集 →	ポスター募集・作成 →	周知 →	標語募集 →	ポスター募集・作成 →
社協支部	ポスター案の募集・とりまとめ・作成・配布					
その他推進団体	周知協力					

② 野本音頭を活用した地域・伝統行事の周知

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知・事業協力	検討 →		実施 →		
社協支部	地域伝統行事の周知					
その他推進団体	周知協力					

③ 世代間交流事業の開催

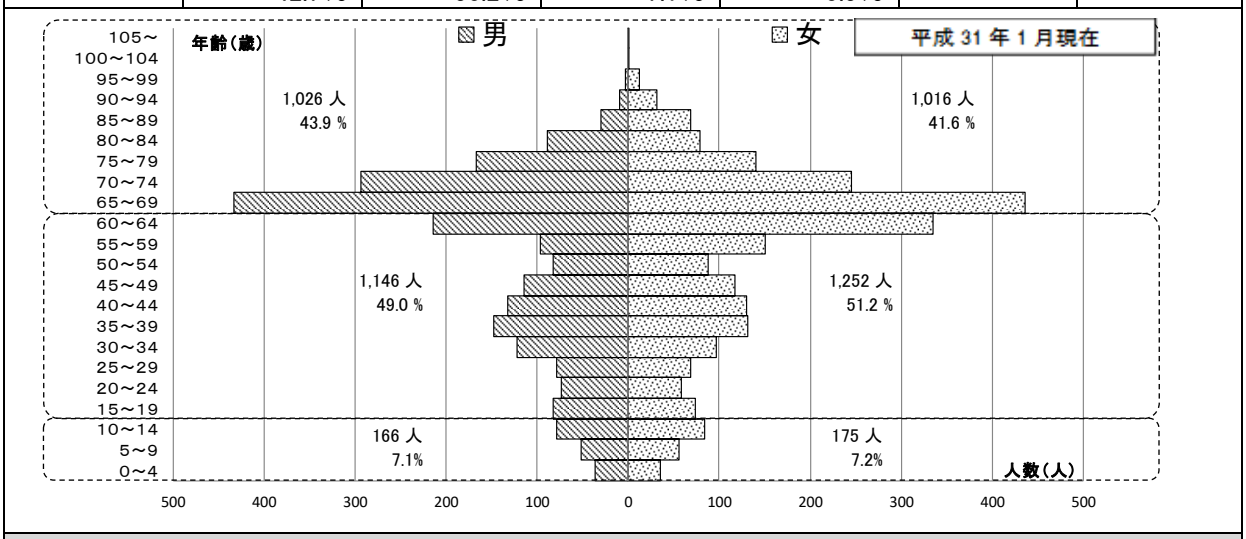
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知・事業協力	調査・検討 →		実施 →		
社協支部	企画運営・ボランティアの募集					
その他推進団体	周知・事業の協力					

6　高坂丘陵地区

地区の概要

市の南部の丘陵地に位置し、土地区画整理事業により開発された住宅地で、都市基盤や交通アクセスが整備されています。なお、当初整備から 35 年程経過しており、急激な高齢化が進んでいます。

平成 31 年 1 月現在					平成 26 年	
人口	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢化率
4,781 人	2,042 人 42.7%	2,398 人 50.2%	341 人 7.1%	25 人 0.5%	5,262 人	1,321 人 25.1%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	1事業者	通所介護	―
	訪問介護	―	グループホーム	―
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			―
障害者分野	訪問系事業所	4事業者	日中活動系事業所	―
	入所施設	―	グループホーム	―
子育て分野	保育所※	―		
	幼稚園	―		
	放課後児童クラブ	2か所　定員　75 人　利用者数　53 人		
その他資源	公園			19 か所（229,909 ㎡）
	民生委員・児童委員数	11 人	地域福祉協力員	1人
	病院・診療所	2施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	294 人	シニアクラブ設置数	1か所
高齢者世帯数	504 世帯	シニアクラブ会員数	25 人
自治会加入世帯数	1,787 世帯	シルバー人材センター登録者数	62 人
高齢者サロン数	5か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	29 人
支え合いサポーター登録者数	13 人		
要支援認定者数	49 人	要介護認定者数	131 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	123 人	17 人	30 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

【第一次プランの概要】

重点課題

1　自助・共助・公助の各分野での顔の見える関係づくり
2　自助・共助・公助の各分野での仕組みと事業の見直し

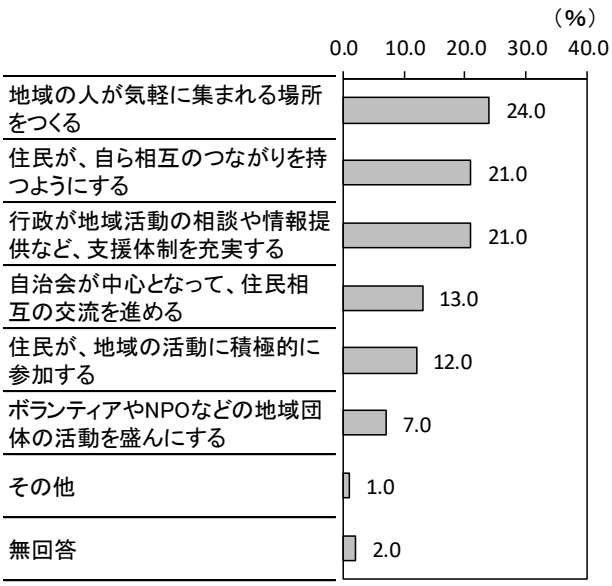
高坂丘陵地区は、第一次プランでは、ベッドタウンとして発展してきた地域の特性から、地域のつながりや住民の高齢化への対応として、地域の様々な課題を自助・共助・公助の観点から整理し、２つの重点課題に絞り込んで各種取組を推進してきました。地域のつながりを育むために幅広い年齢層の居場所となるタやけひろばや、社協支部事業と各団体との連携による福祉まつり・敬老会などのイベントを開催し、地域福祉の課題の情報共有に向けて、各自治会長と民生委員・児童委員との意見交換会を行い、一部自治会では会員数のバランスをとるために班の見直しを実施しました。（１顔の見える関係作り）また、ハートピアまちづくり協議会を中心に、青色パトロールや防犯パトロールによる地域の見守りや、地域情報をホームページで発信する“高坂丘陵ねっと”を活用した取組など、計画は概ね目標どおり実施することができました。（２仕組みと事業の見直し）

しかし、高齢化は急速に進んでおり、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加している状況から、地域の支え合いや共助・互助の仕組みは重要性を増しているため、第一次プランでの取組を継続し発展させていく必要があります。

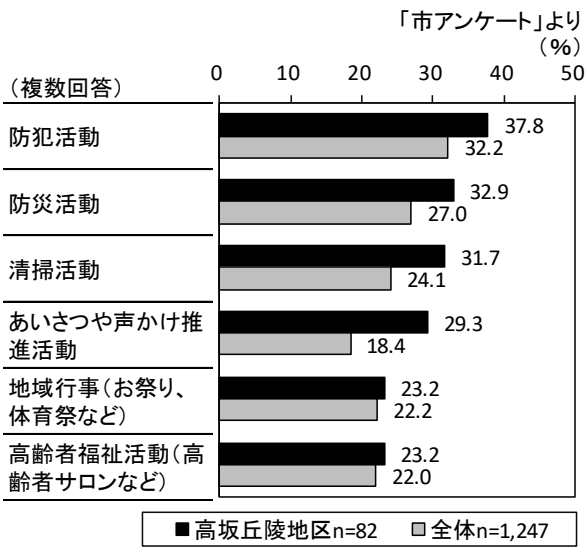
高坂丘陵地区プラン推進委員会で実施したアンケート調査では、地域の課題に対して住民が相互に協力するために必要なこととして、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」との回答が最も多く、住民交流の場づくりの活動は今後も取り組んでいくことが期待されており、多くの住民が参加するように活動内容の充実も図っていく必要があります。

また、市が実施したアンケート調査では、活発になると良いと思う地域活動は、防犯活動や防災活動など生活の安全に関わるものが上位を占めており、安心・安全に暮らせる地域づくりも重要となっています。

■地域の課題に対して住民が相互に協力するために必要なこと　「推進委員会アンケート」より



■活発になると良いと思う地域活動（上位6位）　「市アンケート」より



策定の経緯と方向性

◆ **支え合いとつながりのある地域づくり　～支え合いサポート事業の充実～**

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えており、日常生活においては今後さらに支え合いが必要となります。しかし、現状では、ボランティアに関心はあっても実際に活動している方は少なく、近所づきあいもあいさつをする程度が多く、地域のつながりは弱い状況です。

そのため、地域のつながりを強め、日常生活の困りごとなどは地域で解決できるように、支え合いサポート事業の充実に取り組みます。

◆ **安心して暮らせる安全な環境づくり　～防犯・防災に関する取組の周知～**

青色パトロールや夜間の防犯パトロールを長年にわたり取り組んでいますが、協力者の高齢化などから減少がみられます。しかし、大規模な災害の発生や高齢者を対象とした事件などが全国的に多発するなかで、防災活動や防犯活動の必要性を感じている住民も多くいます。安全・安心な地域づくりには、身近な住民同士の協力が不可欠であるため、防災や防犯活動などの周知を図って参加協力者を増やし、安心して暮らせる安全な環境づくりに取り組みます。

◆ **健康で生きがいのあるまちづくり　～講習会開催や地域の居場所支援～**

高齢化が進む中で、できる限り自立し、自分らしい暮らしを続けていくためには、心身ともに健康であることが大切です。また、健康は地域住民にとっても関心の高いテーマであるため、予防の取組として、身近な地域で健康づくりに取り組める環境が整えば、住民同士の交流の場にもなり、地域のつながりづくりのきっかけにもなります。そのため、健康づくりに関する講習会の開催や居場所づくりの支援などに取り組みます。

課題のまとめ

1. 支え合いの必要性は増す一方で、地域のつながりが弱い
2. 防犯パトロールなど地域の安全活動への参加協力者が減少している
3. 高齢化率が高くなっている中で、健康維持が重要なテーマになっている

今後の方向性

1. 地域のつながりを強め、日常生活の困りごとを地域で解決できる仕組みを広げていく
2. 安心・安全な地域づくりに向けた地域での活動の周知を図りながら、協力者を増やす
3. いつまでも住み慣れた地域でイキイキと生活できるように、健康づくりの取組を進める

主な取組み

1. 支え合いとつながりのある地域づくり　～支え合いサポート事業の充実～
2. 安心して暮らせる安全な環境づくり　～防犯・防災に関する取組の周知～
3. 健康で生きがいのあるまちづくり　～講習会の開催や地域の居場所支援～

役割分担とスケジュール

① 支え合いとつながりのある地域づくり　～支え合いサポート事業の充実～

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	・事業利用、 ・支え合いサポーター登録	実施				
社協支部、第２層協議体、市社協、民生委員・児童委員、自治会、ハートピアまちづくり協議会、ボランティア団体、サロン、PTA・学校等	・事業周知 ・支え合いサポーター登録への協力	見直し・実施				

② 安心して暮らせる安全な環境づくり　～防犯・防災に関する取組の周知～

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民、地域	・防犯パトロールや防災訓練（＝事業）への参加・協力	実施				
社協支部、プラン推進委員会、市社協、市民活動センター、自治会、ハートピアまちづくり協議会、民生委員・児童委員、ボランティア団体、サロン、PTA、学校等	・事業周知と協力 ・事業参加と協力	見直し・実施				

③ 健康で生きがいのあるまちづくり　～講習会開催や地域の居場所支援～

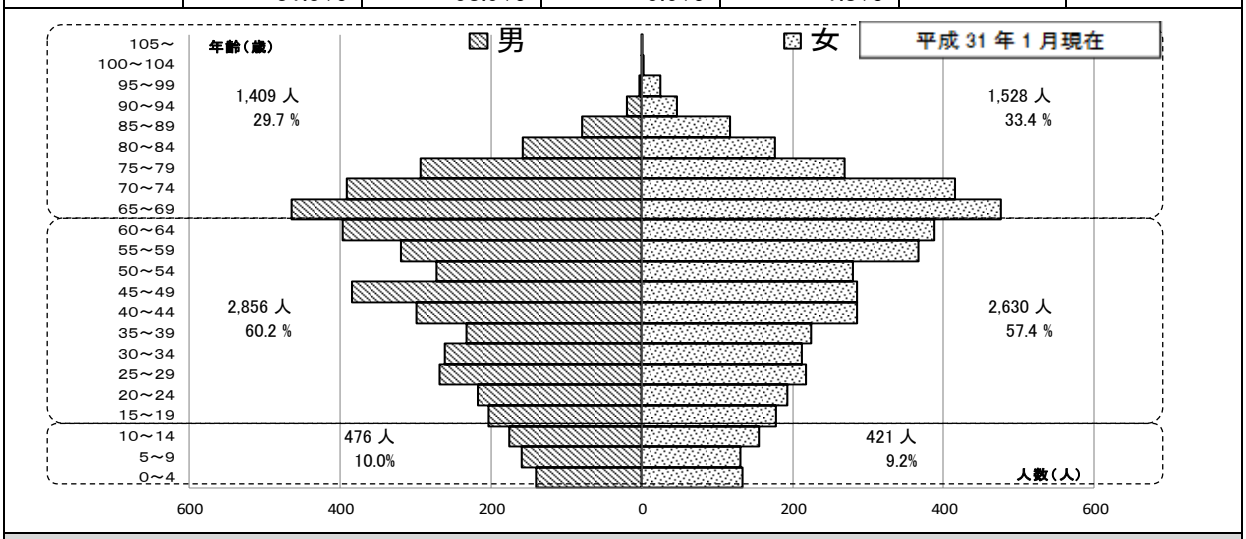
想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民、地域	講習会や居場所への参加	実施				
社協支部、プラン推進委員会、市社協、市民活動センター、自治会、ハートピアまちづくり協議会、民生委員・児童委員、ボランティア団体、サロン、PTA、学校等	・講習会開催計画と協力 ・講習会開催周知と協力 ・講習会開催と協力 ・講習会参加 ・地域の居場所支援と協力	見直し・実施				
	・ラジオ体操会場の拡大と協力	実施場所検討	協力者募集・実施			

7　平野地区

地区の概要

市の北部に位置し、東側の大規模な住宅地と、それ以外の田園住宅地域からなっています。東側住宅地や東松山駅から大岡地区方面へ通じるバス路線があります。

平成 31 年 1 月現在					平成 26 年	
人口	高齢者人口・比率	生産年齢人口・比率	年少人口・比率	外国人人口・比率	人口	高齢者人口・比率
9,320 人	2,937 人 31.5%	5,486 人 58.9%	897 人 9.6%	171 人 1.8%	9,770 人	2,325 人 23.8%



保健福祉等に関する社会資源				
高齢者分野	居宅介護支援	1事業者	通所介護	―
	訪問介護	1事業者	グループホーム	2事業者
	介護老人福祉施設・介護老人保健施設			―
障害者分野	訪問系事業所	―	日中活動系事業所	1事業者
	入所施設	―	グループホーム	7事業者
子育て分野	保育所※	1か所	定員 60人	利用者数 72人
	幼稚園	1か所	定員270人	利用者数154人
	放課後児童クラブ	1か所	定員 70人	利用者数 60人
その他資源	公園			8か所（45,655 ㎡）
	民生委員・児童委員数	15 人	地域福祉協力員	4人
	病院・診療所	5施設		

地域の指標			
一人暮らし高齢者数	549 人	シニアクラブ設置数	7か所
高齢者世帯数	636 世帯	シニアクラブ会員数	397 人
自治会加入世帯数	2,975 世帯	シルバー人材センター登録者数	95 人
高齢者サロン数	8か所	シニアボランティアポイント制度登録者数	46 人
支え合いサポーター登録者数	15 人		
要支援認定者数	131 人	要介護認定者数	284 人

障害者手帳所持者数	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
	282 人	80 人	78 人

※小規模保育事業所、認定こども園含む

これまでの振り返り

平野地区では、第一次プランは３つの重点課題を取り上げ、課題解決に向けた取組目標を２点掲げました。

活動内容としては、子育て世代から高齢者まで、様々な地域住民が交流し、支え合えるような地域づくりを進めるために、サロン活動について検討、工夫して開催してきました。

【第一次プランの概要】

重点課題	１　高齢者の居場所づくり ２　子育ての相談をし合える場の提供 ３　情報発信の強化
取組目標	１　住民一人ひとりが地域とつながりを持とう ２　情報発信の強化

子育てサロンでは情報発信を目指してテーマを設けて開催し、子育てサロンに高齢者のサロン参加者を招いて世代間交流を図りました。

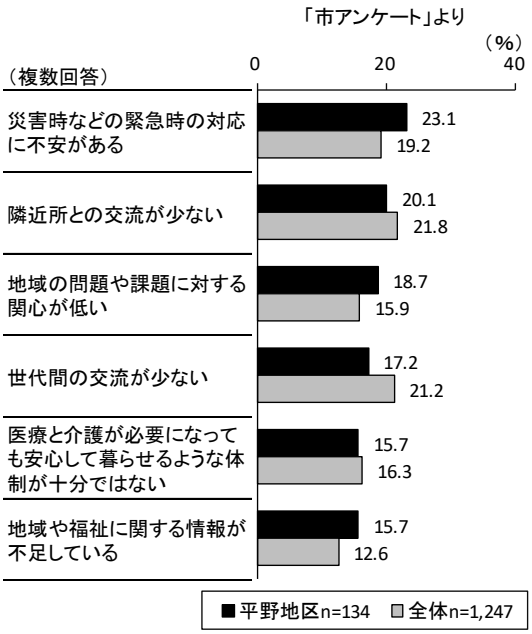
しかし、サロン活動は参加者の固定化がみられます。そして男性の参加者も増えないなどの課題があがっており、先進事例の取組を聞く機会や情報交換の場などが必要となっています。また、核家族化が進む中で、多世代の交流は若い世代の意見を聴ける機会となり、高齢者にとっては認知症予防の効果などが期待できるため、継続して取り組んでいく必要があります。

情報発信についても、自治会を通じてチラシの回覧を行いましたが、PR 活動が足りないという指摘もありました。今後は様々な情報ツールを活用し、継続的に情報を発信していく必要があります。

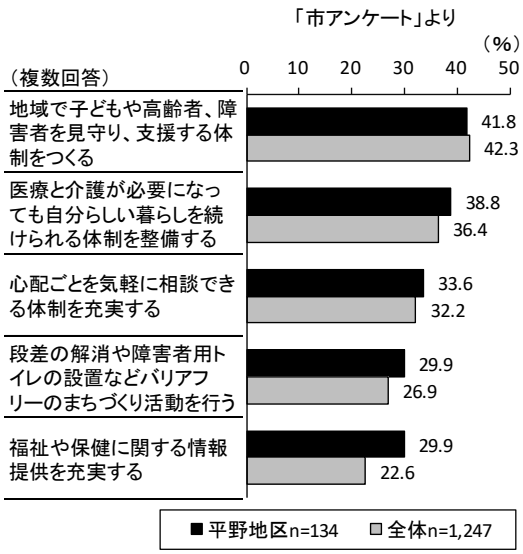
その他にも、自治会の加入者の減少を心配する意見や、地域への愛着やつながりについて考えるきっかけづくりが必要ではないかという意見などがあがっています。

市が実施したアンケート調査でも、地域の問題点として、災害時の対応や隣近所との交流が少ないこと、地域の問題や課題に対する関心の低いことなどが上位となっています。また、地域がより住みやすくなるために必要なこととして、地域で子どもと高齢者、障害者を見守り、支援する体制をつくることが最も多くなっています。

■地域における問題点【上位5位】



■地域がより住みやすくなるために必要な取組（上位5位）



策定の経緯と方向性

◆ **研修会などの開催**

各地区の高齢者サロンは参加者が固定化し、声かけをしても新たな参加者が少ない現状です。サロン活動をはじめとする地域の活動に住民が参加し、活発になるように、先進事例の情報の入手や、講習会及び研修会の開催などについて提案がありました。また、多くの住民が参加するような取組も必要であるという意見がありました。

そのため、ゴミゼロ運動などの地域の集まりにあわせた開催や、各地区のニーズに応じた内容の講演会を開催するなど、住民の参加拡大につながるような工夫をしながら全地区において研修会を開催します。

◆ **世代間交流事業の開催**

社協の平野支部事業で開催されている子育てサロンを活用した世代間交流会は、高齢者の参加が増えないという課題を抱えています。しかし、世代間交流を望む意見も多いため、次期プランでも引き続き世代間交流に取り組んでいきます。また、夏休み・春休みなどの長期休業期間を活用した小中学生を中心とした居場所づくりにおいても、世代間交流事業を取り組んでいきます。

◆ **平野地区カルタの作成**

若い世代の地元愛が育まれるように、地域を知る、あるいは地域を再確認・再発見できるようなツールがあると良いということで、形に残せるものとして、カルタを作っていくこととなりました。子どもだけでなくサロンの参加者や自治会などが参加して、カルタの素材集めからさし絵の作成まで、地域全体で取り組みます。また、地区で開催するイベントにあわせてカルタ大会を開催するなど、作品の有効活用を図っていきます。

課題のまとめ

1. サロンなどの地域活動についての先進事例を聴く機会や、取組について情報収集できる機会があるとよい
2. 子育て世代と、高齢者の方の交流の場がもてるとよい
3. 地域への愛着やつながりについて考えるきっかけづくりとなるものがあるとよい

今後の方向性

1. サロン活動など地域活動の活性化を考える
2. 地域でのつながりを再構築
3. 地域の再発見

主な取組み

1. 研修会の開催など
2. 世代間交流事業の開催など
3. 平野地区カルタの作成

役割分担とスケジュール

① 研修会の開催など

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知協力	内容検討 →	研修会の開催 →	→	→	講演会 →
社協支部	研修内容検討・講師依頼・周知活動					
自治会、サロン等	研修内容検討・周知活動					

※９地区あるため、各年度で３地区程度を開催し、３年間ですべての地区を回る計画です。

② 世代間交流事業の開催など

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	周知協力	検討 →	実施 →	→	→	→
社協支部	企画運営　広報					
自治会、松二小、北中学校、子ども会、サロン等	周知協力					

③ 平野地区カルタの作成

想定される協力機関	役割	実施年度				
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
住民・地域	素材募集・周知協力	内容検討 →	製本 →	実施 →	再検討 →	実施 →
社協支部	とりまとめ・製本作業					
自治会、松二小、北中学校、サロンシニアクラブ等	素材募集・周知協力					